

経営比較分析表

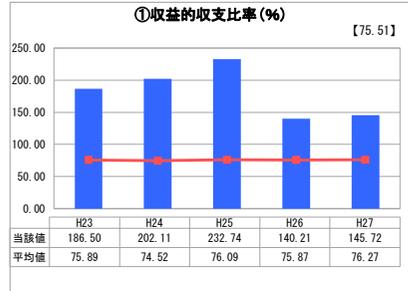
山形県 遊佐町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.42	5,181

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,649	208.39	70.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,556	19.60	181.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



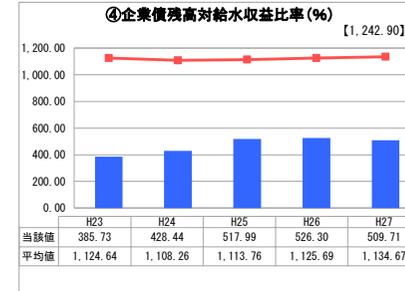
「単年度の収支」



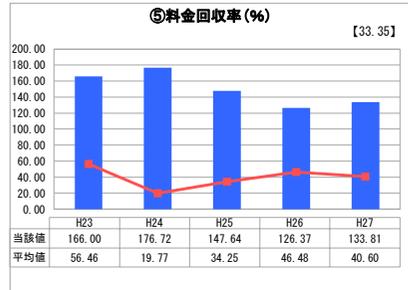
「累積欠損」



「支払能力」



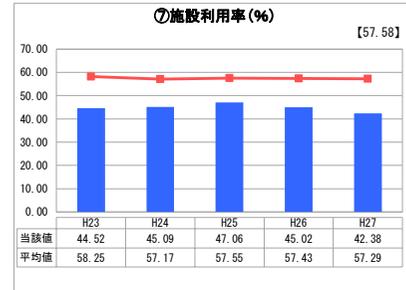
「債務残高」



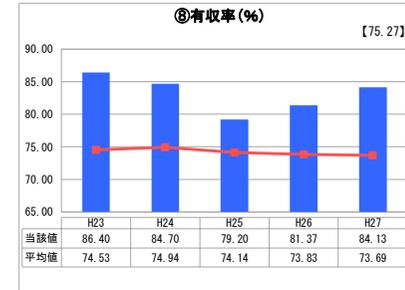
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

簡易水道の料金を上水道と同じものにしてきているため、他団体と比べて収益的収支比率は大きくなっている。平成26年に急激に低下しているのは、統合簡易水道事業で施設整備のため借り入れた企業債の据置期間が終了し元金の返済が始まった（支出が増加した）ことによる。同じ原因で給水原価が上昇しているため、料金回収率が低下している（供給単価はほぼ横ばい）。給水収益は人口の減少に伴い減少傾向にあるので、施設運営の効率化などで支出を削減していかなければならない。施設の利用率は通年では50%を切るが、夏季に施設の最大配水量まで稼働し、冬季に使用率が大きく落ち込んでいる。気温の影響や、レジャーや帰省などで需要が増えるためと考えられる。有収率は平成25年に落ち込んでいるが、これは本管の漏水などによるもので、位置が特定できたところから順次修繕を行って徐々に回復している。

2. 老朽化の状況について

管路更新率がH25以降0となっているが、これは統合簡易水道事業の中で主に機械設備工事を行っていたため。平成28年度には直世地区の機械設備の他、長らく更新されなかった配水池から住宅区域までの配水管を更新する工事を行っている。主要な配水管は下水道事業などと同時に更新されていて現在のところ問題はないが、一部山間部や狭小区間など、大型重機が進入できない場所に布設された配水管が更新できていない。施工性が非常に悪いので、更新には時間を要すると思われる。

全体総括

施設の効率性としては施設規模を夏季の観光施設利用などの需要に合わせて考えると、通年で低い値になるのはやむを得ないものと考えられる。平成29年度からは簡易水道事業は上水道事業に統合され地方官営企業が適用されることになる。試算においては新たに増える減価償却費が料金収入に対して非常に大きく、収益、給水規模に対して施設規模が大きい計算になるが、一方で夏季には水需要が最大配水量のほぼ100%になる。施設の統合等による効率化は施設の配置が離れているので見込めず、今後の当面の経営は簡易水道区域の赤字を上水道区域の黒字で補填するような状態になると思われる。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。